

謝肉祭 少女散華

18歳未満
閲覧禁止

加乃一様



謝世海
少女散華
18歳未満 固禁 同人誌
九乃一人

取り囲んでいる

教え子達が私を取り囲んでいる

以前妖魔に襲われた際の後遺症も残っていたのだから

妖魔、教え子達の体液が注がれると

意識は飛びながりにびなが

すぐに効果が出始めた。

そのうち世

界は弾け

と

んだ。



妖魔が私の心に進入した時に
私は全てを悟った。
人の心から妖魔は生まれ
妖魔は人の心に潜む

全ては陰陽の環の中に在り、
天の理を覆す事は出来ない、

彼ら…いや、
私達を滅ぼす事は
不可能なのだ。

あそこだおい、
まだ生きてるぞ

大丈夫か!?
所属と姓名を!

明かりが見えた!

私達を助けに来た者達に
わたしたちは微笑んだ。

おおい






「わたしの前に立つ男は無表情な顔のまま
敗れたわたし達の前に立ち言い放った。
「抜け忍なんて
下の下の者のする事だよ、
わかっちゃいない
だから善忍悪忍どちらからも
追われるような羽目になってるんだ」


「お友達と一緒に
楽しい気持ちもわかるけど
いつかこうなるって事は
想像出来たんじゃあないのかい」
わたし達の逃亡生活は、
こうして幕を閉じた。






忍者を殺さず、自殺させる事無く
捕らえられる腕というのは
余程の手練ではないと出来ない芸当だ。
抵抗をやめたわたし達を、
彼らは自らのアジトに運び入れ、
一人一人に幻術を施した。

念入りに行われたそれは
わたし達の女としての
部分を過敏にするもので
今後彼らがわたし達に
何をさせようとしているか
想像させる物だった。




わたし達は個別の部屋に分けられ、
あとはお決まりのコースが待っていた。
暗示で開いた体に男達が群がる。
脳髓まで痺れるような感覚……
薬物もたっぶり使っているのだろう……

しかし、
殺さないと言う所に勝機はある。
私は術を掛けられる前に
自己暗示を掛けておいた。
相手のキーワードで発動する物で
敵の暗示の内を破り
正気に戻るといふ物で……



男達は一日おきに幻術を掛け、支配を
より深く根強い物にしていく。
男は言う。
「我々はただ右から左に流すだけの人間さ。
日本のニンジャは金になるからね」

ペットにするにせよ
ボディガードにするにせよ、
ちやんと言う事は聞かせられなきや
いけない」
わたしの体はほほ彼らの術中にあつたが、
それでも最後の切り札、
自己暗示がわたしの精神を守っていた。




何日経っただろうか：
基礎は習っているとはいえ
その手のプロに掛かってしまえば
普通の忍者では成す術がない。
寝物語に他のメンバー達の
様子も聞こえてきた。

「器量の良い金髪の子は男達に
特に人気で、毎日念入りに嬲られている。
仕上がりも上々で常に男を
受け入れられるようになってる」

「目付きの悪い少女は
調教の甲斐もあつて性器を見ると
悦んでむしやぶりつくようにな
っている。とても嬉しそうだ」

日影ちゃんの話を知ると
胸が痛んだ。
彼女にそこまでさせる為には
どんな事をしたんだらうか。





「体の小さい子はクライアントの
要望でしっかりと広げている最中だ
もうすっかり啜えられるように
なっている」

可哀想な未来。
未来は弱い子だからわたしが
守ってあげないといけないかった。
早くここから出してあげないと！